

市立美術報 だより

発行

鹿児島市立美術館 〒892 鹿児島市城山町4-36

TEL (099) 224-3400

館蔵品誌上ギャラリー④



マリー・ローランサン
「マンドリンのレッスン」
1923年
油彩・キャンバス
80.3×65.2cm

二十世紀初頭、パリの絵画の世界はフォービズムとキュビズムの台頭によって大きく揺れ動いていた。その渦巻の中にあって、パリ生まれの生粋のパリジェンヌであるマリー・ローランサンは、洗練された優雅なフランス的な色彩と、単純で素朴でしかも柔かい筆致は注目されることとなった。当時（1905年頃）モンマルトルの「洗濯船」に出入していたブラック、ピカソらの仲間たちの間でもその技法は評価されていた。1912年の最初の個展の成功もエコール・ド・パリの女流画家としての地位を築きあげている。その後、彼女の画業に大きな影響を与えることになる画商ポール・ローザンベールと出会い契約をする。

1914年、第一次世界大戦勃発。大戦中はドイツ人の夫とスペインに亡命した彼女は、プラド美術館に通い、ゴヤやベラスケスの絵画を身近に学んでいる。特にゴヤに強く影響され、画面の色調は暗くなっていき、その沈んだ灰色やバラ色は憂い、哀しみを深く感じさせはじめる。

本作品は1923年の制作で、パリ帰還後の円熟期を迎える貴重な時期の作品といえよう。女性の服と髪飾りのバラ色とレッスンを受けている子供のリボンのブルーがうす暗い灰色の背景に美しく映えている。また初期の特徴ともいえる細く子鹿のような眼に、ローランサンのスペイン亡命時代の孤独感と憂悲を色濃く感じとることができる。